

研究通信

No.12

一大会特集

会	部	内
研	究	部
社	會	本
落	集	富士學
東京	区	文
東京	大	學
東	學	研
社	會	究

第一回大会を

前にして

有賀喜左衛門

昨年の創立第一回大会は初めての大会として成功であったのを想起して、今年はより以上充実したものにしたいというのが我々の何よりの希望である。そして村研を一歩一歩確実なものにしたいというのが我々の本意である。

今年は昨年より進歩したであろうか。我々は自分自身をかえりみて、この大会に出席したい。我々人々がすべてこの感じを持つなら、村研は一歩一歩進歩するであろう。我々の会は、研究をたのしみ、研究をたのしむ者がお互の研究の進歩に喜び合う会である。友達の成長に驚き、それを讃美し、それを喜び合いたいのである。研究の進歩には眞実の光明があり、それによつて我々の生活への振り下げが深くなる事は

我々の最上の望であるからだ。

終戦以後我々は日本のめじめさ、力なさを余り多く見せつけられて来て、果ては自嘲し、落胆した。科学的光明の過程においても、このような事は多く現われた。

眞実の光明とは果してたゞ感情的な眞実の追求なのであつたろうか。我々は我々又は日本の多くの次脳に身を切られるような切なさを感じる。科学のX

スを切りつけばどこの切り口からも皆血が出る。そして物が云えなくなりそうだ。

しかし切り刻んで、勇て立言し、眞実を発明しなければならない。我々は日本の命をいとおしむが故に敢てした。我々は根から日本人であるが故に我々自身をあわれみ、愛する。そして科学の道上で最後に残る命を確認したい。そういう気持ちから我々の研究を尊敬し、成長させたいのだ。

大会プログラム

昭和二十九年十月十八日(月)
東京教育大学文学部

○午前部(九時~一二時) E四〇三教室

あいさつ 有賀喜左衛門 (九・〇〇~九・一〇)

研究報告その一 松原治郎 (九・一〇~一〇・一〇)

質疑応答 (一〇・一〇~一〇・一〇)

研究報告その二 大内力 (一〇・一一~一・一〇)

質疑応答 (一・一〇~一・一〇)

○午後部(一時~四時) E四〇三教室

研究報告その三 錦谷赳夫 (一・〇〇~一・〇〇)

質疑応答 (一・〇〇~一・一〇)

(総研究グループ共同発表)

○共同討議会 司会 喜多野清一 (一・一〇~四・〇〇)

○協議会 (四時~六時) E四〇三教室

○懇親会 (六時~八時) E四〇三教室

(セロ)

昭和29年9月27日

信 通 研 究 第 12 号

協議会議題提出口

研究大会終了後に、例年の如く協議会を行いますが、第二回大會時に開く協議会では次の如き議題を一応予定致してみます。もとよりこれ以外の議題があつた事と感じますので、前段で最も結論ですから、どしどし御提出戴ければ幸いです。

なお、それそれの議題について会員の方をわざわざして意見を書いて戴きました。

「この意見は公式のものではなくて一つの個人的な意見ですから、参考意見として会員各位がそれをお考えをおきための上、協議会に登記下さるようお願い致します。

(編集部)

協議会議題(案)

○来年度の課題とその研究の方法

○研究大会のあり方について

○今后の事務運営のあり方について

○財政上の問題について

来年度の課題と

その研究の方法について
本年度の研究課題の決定は、時間的にお

きました。そのためか、報告希望者が少く、本部から依頼するという状態でした。これでは唐突な想い出しますので、来る十月の大会で来年度の課題を正式に決定したいと考えます。

その課題としてひとつの試案をあげますと、「町村合併をめぐる諸問題」というよ

うな問題が考えられやすいでしょう。他にも適当な課題があるかと思われますが、その場の思いつきでは論議しがたいので、その点について十分考えておいていただき、その点について十分考えておいていただき、報告会後の協議会で結果を出したいたいと思います。

本年度の大会を少しでも有意義にする配慮をお願いするとともに、来年度大会の一層の成功を期して十分お考えおき下さるようには希望してやみません。

(編 著 直)

村研の運営について

有賀喜庄二門

村研第二回大会が開かれる事になり、当然協議会も行なわれる筈ですが、今度の協議会で論議すべき村研の運営改善について、会員諸君が建設的な御意見を沢山出して下さる事を期待もし、お願いもしたいと思いま

す。その点では従来の研究通信は最近余りふるわぬのは残念です。協議会ではお互に腹のあたり接して盛んな詰合ひを、去年の大会の時のように、したじものだと思っています。私達事務局のものは会員から手を

びしい意見が出て来るとやたらにうれしくなります。どうぞないと熱がなくなつたのかと悲観せざるを得ないのです。もう二年やつて来てマンネリズムに陥つてしまつたうでは大変ですから、今度の大会を持ち運んで結構あります。

さて村研の運営の事ではじろく考えるべき事があるようです。会員の皆様にも沢山御意見はある事でしょうから、もちろん安心していますが、ここに見てつけた事を二、三書いて、協議会の時に議論して頂けたらと思っています。

村研の運営といつても、大会の仕方も勿論大切ですが、大会をうまいやるにはやは

り平素の研究活動を充分にやつておく事が大切だと思います。それについて毎年の宿題をせんじ風に研究活動につづすかは大きな問題と存じます。今年の宿題を実地に調査をした方々は、その調査研究の仕方にいろいろな便不便を経験した事と思います。今年の宿題についてと限ったわけでもなく、一定の課題の研究についてすでに感じている事でも良いですが、村研の如き研究活動に共通の目標を持たせる場合に、どんな風に将来すべきであるかをよく考えておいて頂きたいと思ひます。

これに因連して毎年の宿題のきめ方が安

当であるか。将来はどんな風にそれをさめて行く方が良いか等の御意見を是非お聞かせ下さいものと思ひます。毎年の宿題が何等か関連を持つべき事は理ましいとしても、どうか等の問題もありそうに思ひます。次に事務局も今年で二年、東京教育大学が担当しましたが、それも最初各大学で交代して担当する約束のように、新風をとり入れるにはやはり交代する方が良いと思ひますので、これに因連しても御配慮願いたいと思ひております。

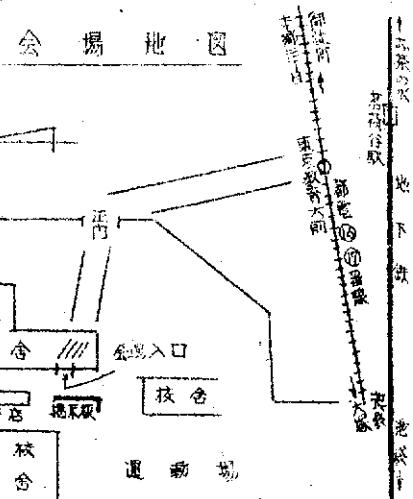
待望の 村研年報第一輯発刊近し

すでに通信第三号にて具体的な構想が報告された者さん御承知の、村研年報第一輯「村落研究の成果と課題」は、きたる第二回大会を期していよいよ刊行されることがなりました。執筆担当者はそれぞれ特色ある力を寄せて下さりましたので、およそ村落研究者にとって仄くこのものをお読みなさる研究史上おさらば画期的な記念書をうながだ

村落研究の成果と課題（約二七〇頁）

序

2 経済学	大内力
3 民俗学	有澤義正衡門
1 村落構造	福武直
2 藩小山隆	灰木明夫
3 經大田堯	中島龍太郎
4 教堀一郎	内山政熙
5 衆中島龍太郎	渡辺洋三
6 人甲田和衛	甲田永源
7 政治と行政堀一郎	中村清治
8 法権二	竹内雅美
9 意識と世論	秋葉隆
10 歴史古代	森岡清美
11 地中世	坂本哲人
12 歴史近世	勝徳雅美
三、漢村	竹内雅美
1. 社会経済	竹内雅美
2. 民俗	坂本哲人
四、海外動向・戦後のアメリカ農村社会	秋葉隆
1. 概説書	坂本哲人
2. 種誌	森岡清美
五、研究ノート	鈴木栄太郎
1. 連邦の地の神	高倉新一郎
2. 農村社会学への期待	武田良三
3. 北海道により	山本登
4. 藩村における母子世帯	鈴木栄太郎
5. 北海道の村落	高倉新一郎
6. 家についての覚え書	鈴木栄太郎
7. 社会的成層化の背景	鈴木栄太郎



◆ 大会参加に要する費用について

本研究大会においては左の如く参加費を
とりきめましたので誠にうれいりますが
何卒御用意願います。

大会参加費	五〇円
懇親会費	一〇〇円
食事代	五〇円
交通費	一〇〇円

なお、この他に会費未納の方は、当日受
付でお払い下さい。

◆ 出欠の御返事のお願い

返信用葉書を同封申上げましたが、大会
出欠の回数につけて、せひ折返し御返事を
賜わりたいと存じます。おそらくとも十月七
日までに到着するようお願い致します。

過去一ヶ月の收支報告

④ 収入		⑤ 支出		⑥ 前月以後の中間報告	
(内訳)名簿売上金	一〇九七	定期賃借入金	六〇〇〇	前月期額(会員8人分)	9554円
切手引替	一五五〇	同右発送費	六八五〇	支 出	2400円
口座利息	二五	一年報録集連絡費	七五一六	内 計	5989円
帳替用紙買入費	八八	同左発送費	三八八三	計	1200円
口座番号印代	一三〇	以上は九月廿二日現在でありますから、 今後大会直前までの又出として、この号の 印刷発送、同封返信ハが予想に約四千円、 年報録集連絡費と大会準備費を考えれば、 大会直前にはゼロになるおそれがあります。	中、支出の項に、No7とあるのは8、No8 とあるのは9の誤りでした。訂正致します。	同 印刷費	1710円
差引残高	五九六六円	語氏であります。	同 発送費	3098円	
訂正	矢木明夫氏 松本市東三番町八五、二 細野誠之氏 松江市上乃木町越大臣舎	前月残高	5966円		

⑦ 研究通信No.10に発表の会計中間報告記事 中、支出の項に、No7とあるのは8、No8 とあるのは9の誤りでした。訂正致します。
⑧ 住所変更
中谷和夫氏 和歌山県有田郡妻籠町小豆島
昭和廿九年度分会費既払込者は約三二名、